



グループA

... 結局, どちらかという,
短期的な活動の話だったかな...



シミュレーションをやるべきときに使われない
シミュレーションをしなくてもいいときに強制される
・シミュレータへの理解への啓蒙
・前例主義を逆にとり「前例」を我々が作る

現実が x_1 | シミュレータAだと y_1 | シミュレータBだと z_1
現実が x_2 | シミュレータAだと y_2 | シミュレータBだと z_2
お互いが得意な / 不得意な場面での適用を進める
・開発者による適用例
・利用者による適用例 <両方あるとよい>
>> このこと自身が一種の「認証」のようなもの

「実践マニュアル」を出版 [短期目標]
(パンフレットのような簡単なものでもよい)
研究会の権威で作ることに意味あり



「飽和度」で示すことのできることを,
シミュレータは当然できる!
これをアナウンスするべし

シミュレータを使うとどうことができる.
どういうときには使わなければいけない, 条件を示すべし.
逆に, 「使わなくてよい条件」を明確にすることも重要.

これを技術者がわが明確にすることが求められる.

H16にガイドラインの見直し.
次のガイドラインへ向けて, 我々から提案を出すべし



シミュレータじゃなければならないこと,
を示す「指標」について, 我々は勉強するべき.
静的指標「飽和度」 遅れ?, 変動幅を示すべき

第1部会: Validationマニュアル?

第2部会: 適用事例

切り分けが必要

シミュレーションをすべき条件

シミュレーションをしなくてよい条件

をチェックリストにすべき

例: 飽和度 $\times \times$ 以上, 駐車場が交差点に隣接している, ...
事例収集にもとづいて, 考えてはどうか.

チェックリスト作成を目的とした適用事例の収集をする



今後(案): 「適用」へのシフト

- ・(適用場面に応じた)モデルの選択
- ・入力データ Network/OD/制御/...
- ・パラメータの調整
- ・データの集計/Presentation技術
- ・出力の感度/一般性